

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	環境調査及び再生論				授業形態	講義			
科目コード	710063	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	中野 光議							ICT活 用	○
授業概要	<p>本授業の目的は学生達が、自然環境の保全・再生に有効な技術と政策、および調査の方法を具体的に理解し、個々の現場で問題点を的確に見抜き、臨機応変に対策を立てられるようになることです。本授業では、損なわれた自然（生物多様性や生態系）を回復させることを目的とした自然再生事業について、計画作成から事後評価までの一連の流れを解説します。また、自然再生事業の一環として行われているモニタリング調査についても詳しく解説します。なお、個々の現場で自然再生事業を実施する思考力を養うために、事例分析を行います。</p>								
関連する科目	水辺環境論、環境緑地論、ピオトープ論の受講を終え、同時期に水辺環境論実習を履修していることが望ましい。履修後は、環境緑地論実習を履修することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	<p>授業の前半は講義を聞きながらワークシート（穴埋め形式）に取り組みます【知識・理解の獲得】。また、講義の中で学生に質問して考えさせる時間を設けることで、学習効果を高めます。後半は、小テストや課題（事例分析・評価、復習）に取り組み、前半の学びを発展させます【汎用的技能の育成】。また、学生の考えを発表する対話型の授業で理解を深めます。</p> <p>第12～15回は、各自で自然再生事業の事例を分析して課題を抽出し、レポートにまとめます。レポートの概要を発表し、学生全員と議論します。</p>								
授業計画 【第1回】	第1回 概論、順応的管理 自然再生事業の定義、背景、必要性について学びます。また、自然再生事業で重視される順応的管理の考え方について学びます。								
授業計画 【第2回】	第2回 自然再生に関する制度、合意形成 自然再生事業に関する法律の内容について学びます。また、自然再生事業で重視される合意形成について学びます。								
授業計画 【第3回】	第3回 河川・湿原における自然再生事業（1）概論 河川と湿原における自然再生事業の背景、歴史、関係する法律等について学びます。								
授業計画 【第4回】	第4回 河川・湿原における自然再生事業（2）事例分析 河川と湿原における自然再生事業の事例について学び、評価・分析します。								
授業計画 【第5回】	第5回 湖沼における自然再生事業（1）概論 湖沼における自然再生事業の背景、歴史、関係する法律等について学びます。								
授業計画 【第6回】	第6回 湖沼における自然再生事業（2）事例分析 湖沼における自然再生事業の事例について学び、評価・分析します。								
授業計画 【第7回】	第7回 水田地帯における自然再生事業（1）概論 水田地帯における自然再生事業の背景、歴史、関係する法律等について学びます。								
授業計画 【第8回】	第8回 水田地帯における自然再生事業（2）事例分析 水田地帯における自然再生事業の事例（魚道と水路脱出工）について学び、評価・分析します。								
授業計画 【第9回】	第9回 概論、事例分析 森林と草原における自然再生事業の背景、歴史、関係する法律等について学びます。								
授業計画 【第10回】	第10回 海域における自然再生事業 海域における自然再生事業の背景や歴史、法律等について学び、事例を評価・分析します。								
授業計画 【第11回】	第11回 都市における自然再生事業 都市の緑地における自然再生事業の背景や歴史、法律等について学び、事例を評価・分析します。								

授業計画【第12回】	第12回 事例分析(1) 自然再生事業について文献やインターネットで調べ、評価・分析を行います。この回では、各自で調べる事例を決め、情報を収集します。
授業計画【第13回】	第13回 事例分析(2) 自然再生事業について文献やインターネットで調べ、評価・分析を行います。この回では、事例を分析して課題を抽出し、解決策を考案します。
授業計画【第14回】	第14回 事例分析発表会(1) 自然再生事業の評価結果について、グループで発表し、全員で議論します。
授業計画【第15回】	第15回 事例分析発表会(2) 自然再生事業の評価結果について、グループで発表し、全員で議論します。
授業の到達目標	1. 自然環境と生態系の保全・再生に必要な生態学的な知識を獲得する【知識・理解の獲得】。 2. 自然環境を対象としたモニタリング調査を計画・実施するために必要な知識を獲得する【知識・理解の獲得】。 3. 個々の現場に即した自然再生事業を遂行するための思考力を養います【汎用的技能の育成】。
学位授与の方針(DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	毎回、授業中に指示します。次回の授業のテーマについて本やインターネットで調べてもらいます。次回の授業の内容について、本やインターネットで調べてください(30分～1時間ほど)。
授業時間外学習【復習】	毎回の授業で指定します。また、返却された提出物を各自で見直してください(30分～1時間ほど)。
課題に対するフィードバック	ワークシート、小テスト、課題、レポートは評価後に返却し、解説します。
評価方法・基準	提出物60%、発表20%、レポート20%で評価します。
テキスト	なし
参考書	『自然再生ハンドブック』日本生態学会 編(地人書館) 『自然再生への挑戦-応用生態工学の視点から』廣瀬利雄ほか 著(学報社) 『水田生態工学入門』水谷正一 編(農文協) 『改訂9版 環境社会検定試験®eco検定公式テキスト』東京商工会議所 編著(日本能率協会マネジメントセンター)
備考	なし